

平成17年6月25日

国際ロータリー第2640地区
世界社会奉仕委員会 御中

海南東ロータリークラブ
世界社会奉仕委員長 寺下 卓

2004～2005年度 活動報告書 世界社会奉仕(WCS)

みだしの件につき、当クラブで実施したWCS(世界社会奉仕)活動について、下記の通り報告致します。

1) 活動内容 (実施国・日時・場所・対象等について報告書があれば別紙と記載し添付して下さい)

実施国 フィリピン共和国
スポンサークラブ 第3810地区ルバング島ロータリークラブ
プロジェクト名 ルバング島カシュウナッツ植林プロジェクト

概要 貧しい島民の生活向上を図るため、山村の農家にカシュウナッツの植林を推進し、その栽培及び収穫の指導によって、新たな収入源とすることを旨とする。村長が率先して、養樹園を造成し、WCS事業で苗木を栽培。苗木の植樹が可能となるまで、育成し、農家に配布する。
具体的には、苗木1本当たり50ペソ(約100円)を1世帯当たり、15本を出来るだけ多く配布する。当面の目標を1,000世帯とする。

ルバング島の概要 この島は太平洋戦争の終戦後、30年間残留し、無事に生還を果たした海南市出身の小野田氏がいたことで有名。首都マニラがあるルソン島の南西に位置する豊かな自然が残された美しい島です。人口約4万人、淡路島の3分の1で小豆島位の大きさで、農業、漁業が主な産業になっている。島の70%の住民は電気もない自給自足の生活を送っている。交通はマニラからチャーター機で40分、定期船便で5時間。唯一、ホテルが一軒営業している。島民は温厚で、とても素朴である。

ルバング島RC 3年前に設立され、メンバーは15名。全員がルバング島出身でマニラに在住している。親クラブはダウタウンマニラRCで、島民の生活向上のために積極的に活動している。

ロータリーの支援

過去において、日本の 2820 地区による医療団派遣、2750 地区の保水植樹が行われている。

訪問日時

2005年2月10日～13日

訪問メンバー

海南東 RC	塩崎博司	林 孝次郎	花田宗弘	田村健治
	中尾享平	横出 廣	寺下 卓	
海南西 RC	深谷勝英	竹腰 勉		

ルバング島



カシュウナツツの木



苗木のプランテーション



村長を表敬訪問

2) 活動結果 (反省や今後の目標などもあれば記載して下さい)

今回の訪問時においては、カシュウナッツの植林のタイミングが間に合わず、その計画と予定地の現場視察を行った。また、独自プログラムとして、生活改善部門のプロジェクトの実施として、豚、鶏の増殖のレンタル事業を視察。低収入農家の所得アップを目指して、島内の2部落(Lubang 地区及び Looc 地区)を訪問。離島における貧しい生活を改善するため、あらゆる角度からの“産業おこし”の取り組み検討する。

WCSの活動を通じて、常に言えることは、一時の生活向上ではなく、将来的な所得の安定と就労の機会を増やすことが必要。このため、行政や他の団体や住民がロータリーと協力して、プランを策定し、計画的に取り組む必要がある。特に地元の資源活用と新たな技術導入の指導など、地道な活動が要求される。WCSの基金活用は全てを満たせるものではないが、その起爆剤となり、将来の活動に活かせるものとなることが望まれる。

今回の訪問では、残念ながら、カシュウナッツの植林事業は準備段階の確認に止まりました。マッチンググラントの最終確認ができるまで、引き続き、情報交換と報告を受けていく予定。現地の状況では、事業の実施においても、離島のハンディがあり、ルバング島 RC のメンバーがマニラ在住であることから、実施にあたっては、同島へ帰島が必要になる。このため、進捗が遅れがちになってしまうのもやむを得ない感がする。ただ、現地での指導力や意欲に関しては、伝わるものがあり、今後の活動は大いに期待できるもので、最終報告を急ぎとりまとめられるよう要請している。